

ほっとくのが一番

大阪府立淀川工科高校吹奏楽部の丸谷明夫先生

以前からすごい指導者として有名で、知っている方でしたが、先日NHKのテレビで紹介されていたので書きました。

高校入学後に初心者部員がたくさん入部する。しかし、全国大会で好成績を収める。

先生は、学年ごとに楽団を組み、交互に演奏させ、聞かせる。

先生曰く

「ほっとくのが一番。やろうという気に火をつけないといけない。」

後輩は先輩の演奏を聴き(見て)「あのようになければならない」と自分の技術でわからんところを見つけ、目標や自分の課題を持つことになる。

そして、先輩を捕まえてとことん教えてもらう。

私は、これを見てかつて先輩教師に習ったことを思い出した。

「教え過ぎなんだよ。生徒がわからん、知りたいと思わせることが大切なんだよ。」と。

(指導主事、校長までやった方だから間違っていないと思っている)

しかし、その後で、生徒が自らの意欲と課題を解決することができる学びの場を用意してあげる必要がある。

(それが、現役時代よくやっていた「学び直しの時間」や「課題研究」である)

今日、丁寧に教えることが重要視されている。教えたことはできるが、応用が利かない。

失敗を避ける指導を行うことで、間違えたくない。極端な言い方だが、弊害が出てきているという分析もある。

要はバランスだろうが、丸谷先生の指導法にうなずけるところは多々ある。